

テナガエビ増殖用リサイクル魚礁設置・開発等事業

1 事業の概要

児島湖の水質は、緩やかに改善してきましたが、近年は横ばい傾向にあり、茶色く濁った「見た目」も悪く、実際の水質以上に「汚い」とのイメージが先行しています。このため、平成30年度から「見た目」の改善に繋がる施策に取り組んでおり、その一つとして、湖水の主な着色原因である植物プランクトンやユスリカの幼虫(アカムシ)などを捕食するテナガエビの増殖手法や水質改善効果等について調査研究を実施し、一定の成果を得たところです。

本事業では、これまでの成果を踏まえた上で、資源循環の視点を取り入れた廃棄物等を活用したリサイクル魚礁の開発に取り組むとともに、開発した魚礁を湖内に設置し、テナガエビの増殖効果を確認することで、児島湖の「見た目」の改善、水生生物による持続的な水質浄化の仕組みづくりを目指しています。

2 令和6年度実績

令和4年7月に設置した廃棄予定の瓦を活用したリサイクル魚礁について、テナガエビの定着状況を継続的に調査するとともに、令和5年6月に設置した取扱が容易な小型の新型リサイクル魚礁についても調査しました。

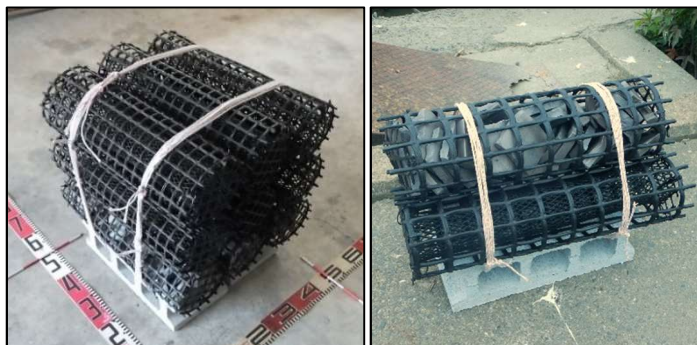
その結果、瓦を活用したいずれの魚礁でも貝殻の魚礁と同様に一定数のテナガエビが定着しており、夏季の調査では抱卵個体も確認されたことから、リサイクル魚礁の設置は、好適な生息・産卵環境の増加に繋がることが示されました。

今後、これまでの調査結果に基づき、地元の漁業者等が魚礁を活用する方法を模索していきます。

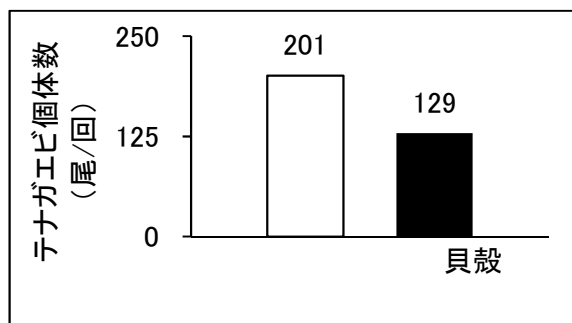
＜児島湖のテナガエビ＞



＜廃瓦のリサイクル魚礁(左)及び新型リサイクル魚礁(右)＞

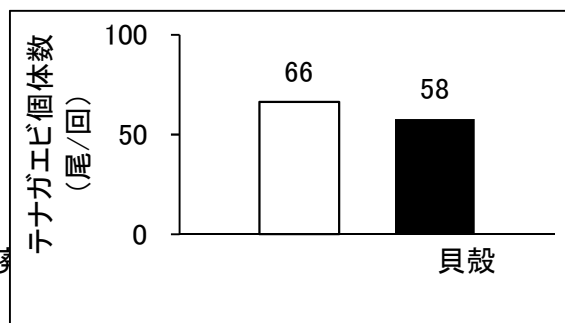


＜リサイクル魚礁への定着状況＞



※令和4～6年度の6回調査の平均値

＜新型リサイクル魚礁への定着状況＞



※令和5～6年度の5回調査の平均値